

令和7年度(2025年度) 事業計画

1. 総務部

2. 事業推進部

3. おもちゃ美術館事業部

4. 子育て支援部

わはは・ひろば高松（高松ひろば・高松コーディネーター）

わはは・ひろば香西

わはは・ひろば坂出

さかいで子育て支援センターまろっ子ひろば

総務部

スタッフ数	常勤 2 名(兼務)
-------	------------

中期計画 3 年間で目指す姿	組織基盤の強化と効率化で、わははネット全体の事業遂行を支える、持続可能な仕組みづくり
-------------------	--

【今年度の目標】 総務部門の確立と、部門間連携が促進される仕組みづくり

目標達成のための計画	内容
①メンバーを確立し、業務分担をスタートさせる	1 総務に関わらず全体の事業における人材発掘のための、求人説明会を実施 2 総務の業務を洗い出し、今年度の役割分担を決定。
②認定 NPO 法人の認定更新	1 認定期間満了を迎えることから、次期の認定に向けてのスケジュールに合わせて準備を進め、認定を得る。
③情報共有の仕組みを整える	1 法人内の情報共有ツールである「LINEWORKS」「サイボウズ」の活用ルールを整えつつ、さらなる活用を図る。
④会議体や年間の必須イベントの整理と実施	1 昨年度よりスタートした運営者会議を引き続き実施 2 半期ごとの振り返りや、面談、年度計画や報告等、毎年実施されるものについて年間のカレンダーを作り、見通しを持った実施につなげる。
⑤全体連携を図るための研修計画	1 部門ごとの研修、全体での研修等、必要な時期や内容について、各部門と連携をとりながら、基本の形を確立する。

【行動計画・連携計画】

- ① -1 4 月、5 月とわははネット全体の求人説明会をオンラインで、平日(日中・夜)、休日等、条件を変えて複数回実施。ホームページ上に常設リクルートページを構築
- ①-2 4 月スタート時点で、総務(人事・経理・庶務)の業務を見える化しつつ、担当の役割を明確化する
- ②-1 認定期間終了日 2025 年 10 月 05 日の 6 か月前から 3 か月前までが更新期間と定められていることから、4 月に入った時点から更新に必要な書類作成を進め、6 月中には更新申請ができるように整える
- ③-1 ICT の活用について、外部の専門家の力も借りながら、より効率的な活用を探る。具体的には、4 月～5 月頃に一度内部の状況の確認を実施し、その後、提案をいただきながら、経費削減と業務の効率化を目指す。部門ごとの管理ツールのばらつきを整理し、ルール化。
- ④-1 運営者会議を毎月 1 回、継続実施。毎回参加者からアンケートをとりながら、半期に 1 回のタイミングで、内容についてもブラッシュアップを図る。
- ④-2 昨年度の実施状況をもとに、今年度用に年間カレンダーを作る。作成したものは、総会資料にとじ込み、全員が確認できる状況に整える。
- ⑤-1 部門ごとに、年次ごとに必要とされる研修、必須のもの、任意のもの等、一覧で確認ができるものを作成。部門リーダーで話し合いを進めながら、9 月末までに整えることを目指す。
新しいスタッフについては、新人研修とともに、部門を超えたスタッフとも関わられるような機会が持てるよう、上記の計画に盛り込む。

事業推進部

スタッフ数	常勤 4 名 ・ パート 1 名
-------	------------------

事業費目標	49,940,598 円（前年比 105%）	昨年度事業費	47,562,474 円
-------	------------------------	--------	--------------

中期計画 3 年間で目指す姿	わははネットのネットワークを大切にし、すべての人が繋がりが合える機会を創出する
-------------------	---

【今年度の目標】 担当事業をより深く理解し、課題意識を持って、関わり合いを大切にする

目標達成のための計画	内容
① 事業の背景への理解を深める	2. 仕様書を読み込み、事業全体の流れや事業の背景を理解する 3. 事業実施の開催報告を共有することで、担当事業以外の事業についても認識を深める 4. 日々の情報収集を意識する
② 積極的に関わる	1. 担当事業の情報・想いをアウトプットする 2. 情報・想いをインプットしに行く 3. ネットワークを太くする
③ 滞りない事業の運営	1. 年間スケジュールを組み立てる 2. 細やかな進捗確認を心掛ける 3. スタッフ間で助け合う

【行動計画・連携計画】

- ①
 - 1. 行政から公募される事業について、仕様書を読み込み、背景にある現在の社会問題やニーズを知る。
 - 2. 各自担当事業だけでなく、全ての事業の開催報告に目を通し、現状を把握する。
 - 3. 日頃からアンテナを張り、情報収集に努める。運営者会議開催後、定例ミーティングで意見交換を行う。
- ②
 - 1. 研修やセミナーで得た情報・学びを他部門にも共有する。
 - ①で深めた事業背景にある社会課題に向けての想いを、事業内で関わる人達と共有していく。
 - 事業実施時には、運営する研修やセミナーの目的や内容を丁寧に伝え、他部門からの受講を促す機会を持つ。
 - 2. より広く社会問題やニーズをキャッチする為に、事業内で関わる人達（講師、行政担当者、会場担当者、地域の方、受講者など）と事業に関する意見交換の場を作るなど、積極的にコミュニケーションを取る。
 - 3. 事業内で関わる人達との関係をより太くする為に、研修やイベント開催後のお礼、感想、アンケート結果等のフィードバックを大切にする。
- ③
 - 1. 担当事業について、昨年度の運営状況から改善点を見出し、見通しを持った年間スケジュールを組む。
 - 2. 細やかな進捗確認が行えるよう、朝礼後ミーティング、日報、定例ミーティングを行う。必要に応じて打ち合わせも加えていく。
 - 3. すぐにヘルプが出せるよう部署内のコミュニケーションを大切にし、心理的安全性の高い職場を目指す。

讃岐おもちゃ美術館事業部

スタッフ数	常勤 4 名 ・ パート 5 名（採用 1 名予定）
-------	----------------------------

売上目標	37,560,000 円	昨年度売上	35,771,946 円
目標来館者数	総来館者 45,000 人 有料来館者 38,800 人	昨年度来館者数	総来館者 43,697 人 有料来館者 36,951 人

中期計画 3 年間で目指す姿	おもちゃを通じて豊かな出会いと体験を提供し、すべての人が輝くひのき舞台を作るとともに、讃岐の伝統と郷土愛を継承する。
-------------------	--

【今年度の目標】 笑顔をつなぐ出会いとワクワクする体験を創り出す

目標達成のための計画	内容
① すべての子どもたちの 笑顔を創り出す	1 ワークショップの充実 2 団体の対応強化 3 障がいのあるなしに関わらず等しく対応ができる
② おもちゃ美術館の魅 力を広げる	1 部門や場所を超えて、讃岐おもちゃ美術館を知る機会を提供 2 SNS やメディア、プレスリリースを通して、発信をし続ける 3 入館者、収入状況について、月に 1 回全体周知
③ おもちゃ学芸員の活 躍と活性化	1 交流会の実施（感謝祭・全国おもちゃ学芸員交流会・同期会（新規）） 2 遊びや、伝統工芸について、伝える技術の向上のための機会を提供 3 活躍の場づくり
④ スタッフ自ら輝けるよ うに	1 3 か月ごとの全体研修の時間の活用 2 団体アンケートのフィードバックやイベント終了後の振り返りから、ニーズを掴み次に活かす 3 自己研鑽によるおもちゃの知識や、伝える技術の向上を図る

【行動計画・連携計画】

①-1 現在実施しているこうぼうでのワークショップに加えて、館内で実施できるワークショップやイベントを月ごとに設定、年間カレンダーに落とす。GW 後、いとのこ部も稼働できるように準備。

①-2 団体に向けて簡単に楽しめるワークショップのパッケージを、6 月までに月齢・人数・時間に合わせて、3 パターン以上用意する

②-1 子育てひろばへのおもちゃの貸出についてのルールを 4 月中旬に周知。出張おもちゃ美術館での活動は、新しく讃岐おもちゃ美術館を知ってもらい機会でもあると捉えて、平日子ども無料招待券を配付するとともに、出張だけでは味わえない館内の魅力を同時に伝える。

②-2 日常的な SNS での発信のノウハウをスタッフ内で共有・マニュアル化。おもちゃ美術館通信の発行のタイミングでは、各所に周知することをルーティン化するとともに、特別なイベントの際には、事前にメディアにリリース。担当を明確にするとともに、マニュアル化。チラシ・通信の配布状況を確認し新たな配布先の開拓や配布状況を意識する習慣づけを

②-3 経営状況についてのデータを毎月 LINEWORKS で共有。3 か月に 1 回の勉強会で、振り返りの時間をとる。

③-2 あそびのむしのオンラインで学んだことは、動画と実践で都度共有。動画については、ひろばの部門にも共有し全体でのスキルアップを図る。

③-3 おも学 SHOP (GW とファミフェスの 2 回)、館内イベントのプログラムづくり。部活動の支援。

④-1 5 月中旬に年間の研修実施計画を策定。

子育て支援部

(1) わはは・ひろば高松（高松ひろば）

スタッフ数	常勤 1 名 ・ パート 3 名
-------	------------------

中期計画 3 年間で目指す姿	妊娠期から切れ目ない支援を実現し、地域との交流を深めみんなで支えあえる子育て環境を築く。
-------------------	--

【今年度の目標】 多様な人との出会いや交流を生み出すひろばづくり。

目標達成のための計画	内容
1. 地域とのつながりづくり (重層的支援体制整備事業)	1. 地域の幼稚園と協働で、0.1歳児の居場所づくり(年12回) 2. 高松エリアとしての事業 ・讃岐おもちゃ美術館へ訪問し、ひろばをまだ知らない人と繋がる機会とする。(年 3 回) ・地域の学生・多世代が参加できる夏祭りの実施 ・フリーマーケットの実施(年2回) 3. ふれあい授業へ参加し、ひろばを利用する親子と学校に出向く(3 校) 4. 地域ボランティアの募集 5. 職場体験の受け入れ 学生主体のイベントの実施
2. 妊娠期からの利用の促進	1. 妊娠期の方向け講座(年 6 回)プレママの会と合流することで先輩ママに産後の生活や妊娠中の不安などを話す交流する機会を持つ。 2. 産休・育休の方向けの講座(年 3 回)育休の不安や準備しておくといいいことを一緒に考える機会を持つ。
3. イベントの充実	1. 早期利用につなげるため、ひろばデビューDAY・赤ちゃんひろばの内容の見直し(フォト・足型・手形) 2. 子育て座談会・個別相談の日を年 6 回設ける。
4. 多様な親子の交流の促進	1. 外国人親子ひろばの実施 (通訳ボランティア滞在日／月2回 交流イベント／2回) 2. ツインズDAYの参加の繋がりのきっかけをつくる。ライングループ作成 3. 敷居を下げ誰でも安心して利用してもらえるよう広報をする。

【行動計画・連携計画】

- ① -1 高松エリア合同で地域に出向き、より多くの子育て家庭と繋がる機会を持つ。
・高松聖母幼稚園へ0歳児・1歳児向けの居場所づくり・多世代参加の夏祭り・フリーマーケット2回
- ② -1 妊娠期からの継続利用促進のため、マタニティ講座に参加した方と赤ちゃんが2か月以内にひろば利用した際、デビュー記念のフォトプレゼント。
- ③ -2 育休復帰前の方が講座に参加し、不安なことや制度について相談できる機会を年 3 回もち、復帰後の生活についての不安や準備しておくといいいことを話しあう時間をとる。希望の方には個別相談の時間をとる。(講師・小出優季さん)
- ④ -1 利用者である通訳ボランティアさん主催で、外国人親子が気軽に遊びに来られる日を月2回作る。

事業費	8,714,000 円
備考: 地域子育て支援拠点事業費 地域加算	

(2) わはは・ひろば高松（たかまつ地域子育て支援コーディネーター）

スタッフ数	常勤 1 名 ・ パート 2 名
-------	------------------

中期計画 3 年間で目指す姿	身近な相談相手として妊娠期からのあらゆる相談を受け、 専門機関と連携し予防的視点で子育てを支える
-------------------	---

【今年度の目標】予防的視点を持ち地域子育て相談機関としての役割を担う

目標達成のための計画	内容
⑥ 情報提供	1.妊娠中の方、子育て中の保護者に向け、新しい制度や育児サービス、子育てイベントの告知、報告を SNS・HP に掲載する。 2.幼稚園・保育所座談会を開催し、座談会を通して情報提供を行う。イベント満足度 80%
⑦ 相談	1.定期訪問先、新規訪問先との関係作りを大切に、CN につなげてもらう仕組みを作る。 2.相談の振り返りや相談ケースについて話し合う機会を持ち、必要な地域資源への理解を深める。 3.休日相談日の実施。
⑧ 広報	1.地域子育て相談機関として認知されるよう定期的に SNS・HP に掲載する。 2.ひろば掲示板に月 1 回テーマを決めて記事を掲載。CN が様々な機関とつながっていることや妊娠・子育て中のあらゆる相談ができることを知ってもらう。
⑨ 他機関連携 (地域子育て相談機関として)	1.地域子育て相談機関として他機関と顔の見える関係をより深めるため、施設訪問、イベント連携・ケース連携につとめる。 2.妊娠期からのイベントを定期開催することで早期から予防的に関わり、必要に応じてケース連携を行う。 3.シングル、ダブルケア、経済的不安など生活の困りごとを抱える方向けに使える制度や相談先を知ってもらえるイベントを他機関と連携して行う。(2 回)
⑩ 資源開発	1.利用者のニーズに沿った新規イベントを行い、必要な地域資源開発につなげる。
⑪ スタッフの連携と スキルアップ	1.定期的にミーティングを開催、新たな制度、情報について学ぶ機会を作る。業務内容の確認、困りごとの解消を行う。 2.日々の振り返りなどで高松・香西ひろばスタッフとのチームワークを高める。坂出 CN との連携。他部署ともお互いにイベント広報や情報提供など HP、SNS を活用して連携し、子育て家庭を共に支える。 3.ひろば内部、外部の研修に積極的に参加し、スキルアップに努める。

【行動計画・連携計画】

②-1 高松エリアスタッフと地域に出向き、CN の周知を行い、相談ができる機会を増やす。

新規 高松聖母幼稚園出張相談2月(高松ひろば)、勝賀エリアコミセン訪問(香西ひろば)

③-2 新規登録利用者で CN を知っている 60%、予防の段階で早期に相談してもらうために、子どもの成長・発達、夫婦の関係性、就労と子育ての両立などの相談項目で平均 10%を目標とする。

⑤保育所入所・育休復帰に向けての不安や発達の悩みを解消するため、新規イベント(病後児保育説明会、言葉の発達座談会)を開催。新規連携先とつながり、資源開発に努める。イベント満足度 80%

⑥-2 坂出 CN との横ぐしを通すため合同オンライン勉強会を行う。(4 回)またシングル、ダブルケア、経済的不安など生活の困りごとを抱える方向けイベントの定期開催に向けて坂出 CN イベントに参加して学ぶ。(6回)

事業費	9, 135, 000 円(前年度事業費 8, 835, 000 円)
事業費の内訳 ・利用者支援事業基本型 基本分 7, 742, 000 円 ・出張相談支援加算 1, 093, 000 円 ・一体的相談支援機関連携等加算 300,000 円	

(3) わはは・ひろば香西

スタッフ数	常勤 1 名 ・ パート 5 名 (内 1 名 育休中)
-------	------------------------------

中期計画 3 年間で目指す姿	地域とのつながりを深め、子育て支援や地域づくりの活動を行い多世代の交流や親子の心地よい居場所をつくる
-------------------	--

【今年度の目標】 勝賀エリアのすべての子育て家庭にひろばを知ってもらう

目標達成のための計画	内容
⑫ 妊娠期、低月齢児からの利用促進	1、マタニティイベント開催(高松ひろばと合同) 年 12 回 2、フリーマーケットを開催。 年 2 回 3、マンスリーフォト週間を開催 年 12 回 4、大人のリフレッシュイベントを開催 年 6 回 5、赤ちゃん向けの広報を行う(SNS にて月2回 24 回)
⑬ 地域の子育て家庭へ広報	1、ひろばを卒業した方向けの同窓会を開催(年 1 回) 2、ひろばのポスターの掲示依頼 3、地域のイベントへ参加(宇佐八幡宮の夏祭りの灯籠づくり、文化祭で出品) 4、ボランティア募集ポスターの掲示依頼
⑭ 地域とのつながりを深める(重層的支援体制整備事業)	1、地域の情報をひろばに掲示する 2、子育てサークル等地域への訪問(4 箇所 14 回) 3、多世代交流イベントの開催 年 2 回
⑮ スタッフ連携を高める	1、ホワイトボードを使って朝礼を行う 2、朝礼・終礼にて各スタッフの業務進行状況を毎日確認する 3、高松エリアでミーティングや地域活動を行う

【行動計画・連携計画】

- ⑤ -1 マタニティイベントは高松ひろば、高松 CN と共同イベントとして月交代で開催。
-2 普段様々な理由からひろばに来られない人も利用しやすいよう香西コミセンにて土曜開催を行う。
-4 大人のリフレッシュタイムの中で地域の名産品等を紹介し、地域を知ってもらう、好きになってもらう。
- ⑥ -2 対象年齢にかかわらず、地域のお店(ごはん屋さん、コインランドリー、郵便局、銀行など)にひろばポスターの掲示依頼をし、よりたくさんの方の方にひろばを知ってもらう。
-4 学習塾や習い事などのひろば対象年齢外の施設にボランティア募集ポスター掲示依頼をし、学生にひろばを知ってもらうきっかけをつくる。
- ⑦ -2 地域の子育てサークル(いちごママさん年 4 回、なかよし教室年 4 回、桃太郎キッズ4回、つるピー2 回)へ訪問し、地域の情報収集や地域のボランティアさんとのつながりをもつ。
-3 さんカフェさんと共同で多世代交流イベントを開催し、学生ボランティアにも活躍できる機会とする。
- ⑧ -1 ホワイトボードを利用して業務を見える化し、お互いが確認しあえるようにする。
-3 高松エリア(高松ひろばと香西ひろば)で地域活動(聖母幼稚園、讃岐おもちゃ美術館へ訪問)や、合同イベント(フリーマーケット)を開催する。

事業費	10,306,000 円
事業費の内訳	
地域子育て支援拠点事業費 8,714,000 円	重層的支援体制整備事業費 1,592,000 円

(4) わはは・ひろば坂出

スタッフ数	常勤 2 名 ・ パート 3 名
-------	------------------

中期計画 3 年間で目指す姿	多様な子育て家庭を支え、地域とつながり 誰もが安心して暮らせる町を作るために前進する。
-------------------	--

【今年度の目標】 新しいつながりをつくる。

目標達成のための計画	内容
① 妊娠期、赤ちゃん期 家庭の利用促進	1. 妊娠期の方向けチラシを作成。産院や妊婦面談時に配布。 2. 妊娠期～低月齢時期向けのSNS発信を定期的に行う(月 1 回) 3. 妊娠時面談後にひろば見学案内し、産後の早期利用につなげる。 4. 赤ちゃん家庭が交流できるイベントを定期開催する。(月 3 回) 5. 開設時間を 1 時間延長しより利用しやすくする。(6 月より 10:00～16:00 開館)
② 利用者どうしのつながりづくり	1. フリマを年 2 回開催し、利用者からボランティアを募集、準備、運営など利用者とともに開催する。交流会を行い、つながりを深める場とする。 2. 親同士が気軽に交流できる場を作り身近なつながりづくりのきっかけとする。
③ 地域とのつながりを広げる	1. 地域のイベントに合わせた休日開館実施(第 4 土曜デー、夏祭り) 2. 地域の支援者やボランティアと連携して講座やイベント開催する。 3. 学生ボランティアの募集を行い、親子との交流を図る。(長期休暇期間) 4. 積極的に他部署や関係機関に出向き、地域の情報を集める。
④ スタッフの連携	1. スタッフファイルを活用し、イベント計画や研修報告などの情報共有をする。 2. 積極的に研修を受講し、スキルアップにつなげる
⑤ 坂出エリアの連携	地域計画「安心して過ごせる地域を子育て家庭とともにつくる」 1. エリアのスタッフが情報共有や交流できる場を作る。 2. 連携してイベントを計画、企画し、親子の参加の機会を増やす。

【行動計画・連携計画】

- ① -3 妊婦等包括相談支援事業にて妊娠時または出産後早期に拠点とつながるきっかけとなるようにひろばの案内や赤ちゃんひろばの紹介を行う。(さかいで子育てコーディネーターとの連携)
- ② -2 前年度から継続して、讃岐おもちゃ美術館のおもちゃの貸し出しを利用し、参加者の交流を深める。
- ③ -2 関係機関との共同イベントを実施。利用者が地域とつながる機会を増やす。(年 2 回)
- ③ -4 地域や他部署から集めた情報をSNSにて発信。親子が地域の情報に触れる機会を増やす。
- ④ -2 他部署への講座参加、外部研修に各スタッフ年間 3 回程度参加し、スキルアップにつなげる。
- ⑤ -1 月 1 回程度、エリア内で情報交換・交流の場を持ち、各拠点の運営に活かせるようにする。
- ⑤ -2 拠点以外でのイベントを開催し、ひろば以外でも地域の親子と交流できる場をつくる。(年 3 回程度)

事業費	11,919,000 円 (前年度事業費 8,789,000 円)
事業の内訳	地域子育て支援拠点事業 9,023,000 円 地域支援加算 1,646,000 円 賃借料補助加算 1,050,000 円 市営京町駐車場回数券配布事業 200,000 円

(5) さかいで子育て支援センター まろっ子ひろば（センター）

スタッフ数	常勤 2 名 ・ パート 0 名
中期計画 3 年間で目指す姿	子育てに関わる人にとってのハブ的役割を担う

【今年度の目標】 安定した館の運営と幅広い層(妊娠期～学童期)の利用者増加を目指す

目標達成のための計画	内容
① 自主事業	1.リサイクルデー年 2 回開催。マタニティウェア、0 歳～学童期の子ども服を対象とする。また、他部門と連携して開催する。 2.妊娠期対象のフェスティバル年 1 回、子育て世帯対象のフェスティバル年 1 回開催。 3.学童期向け図書貸出「まろっ子文庫ジュニア」目標利用者数 200 人。
② 坂出エリアの連携	1.LINE WORKS を活かしてスタッフが坂出エリア全体の業務やスケジュールを共有する。 2.防災情報・防犯対策・情報を共有する。
③ 広報の充実による利用者増	1.HP・SNS を強化し、館の情報を月に 2 回掲載する。 2.毎月の地域の回覧板を継続して発行する(発行部数 182 部/月)。 3.市広報掲載の充実 4.外国人対応(SNS、利用規約など)
④ 施設管理	1.消耗品の消費ペースを把握し、計画的に購入する。 2.毎日の館内清掃、敷地及び近隣との隣接箇所の清掃・美化、閉館後のおもちゃの消毒、拭拭などの衛生管理を行う。 3.窓、エアコンフィルターなど館内大掃除を年 2 回行う。
⑤ 令和 8 年度指定管理受託のためのプロポーザルの準備	1 運営・財務計画、実績の整理、人員配置、リスク管理などの枠組みを整え、法令や税制の変更、最低賃金・物価変動等の項目を収集・整理する。

【行動計画・連携計画】

- ①-1 妊娠中から出産後、子どもが就学しても利用できるような物品を対象とする。より多くの人に周知するため、提供品の依頼、開催日程のお知らせをホームページ、SNSだけでなく市広報でも行う。
- ①-1 他拠点と連携して開催し、前の部門の残りを次の部門で利用するなど連携を図る。
- ①-3 特に近隣の小学校、幼稚園に文庫の周知を図り、利用を促す。
- ②-1 妊婦等包括相談支援事業がまろっ子ひろば・坂出ひろばで行われるため、相互にスケジュールを共有する。
- ②-2 坂出警察の協力を仰ぎ、防犯についての出前講座を開催する。
- ③-2 回覧板に文庫やわかたけパン、彩葉作業所の移動販売など地域の方が利用できる情報をこまめに掲載し、地域住民の利用を促進する。
- ③-4 SNSを外国人が見てもわかりやすいものにする。また、登録時書類を平易な日本語のものまたは外国語に対応したものを作成する。
- ⑤-1 必要な情報の収集・整理、市主催の説明会への参加、スタッフミーティングの設定、準備の報告などについて年間計画を立案する。

事業費	センター管理事業費 6,236,000 円（前年度事業費 6,236,000 円） 子育てに関するイベント事業費 300,000 円(前年度事業費 300,000 円)
備考:	

(6) さかいで子育て支援センターまるっ子ひろば（まるっ子ひろば）

スタッフ数	常勤 1 名 ・ パート 3 名
-------	------------------

中期計画 3 年間で目指す姿	子育てに関わる人にとってのハブ的役割を担う
-------------------	-----------------------

【今年度の目標】 妊娠期からの切れ目ない利用につながるひろば

目標達成のための計画	内容
① 早期利用の促進	1.パパママ教室・妊娠等包括相談支援事業にてひろばの周知を行う。 2.SNS にて、妊娠期・低月齢からの利用促進をテーマにした投稿をする。(月 2 回)
② 赤ちゃん向けイベントの充実	1.赤ちゃん向けイベントの実施。(月 2 回以上) 2 アンケートを実施し、子育て家庭のニーズを把握しイベントに反映する。
③ 様々な人と関われる機会をつくる	1.まるっ子サポーターズがイベント参加する機会を作る。(年 6 回) 2.学生ボランティアと親子が交流できる機会をつくる。 3.多世代交流イベントの開催。(年 1 回)
④ スタッフの連携	1.業務の進捗状況を確認・共有のため週 1 回スタッフミーティングを実施する。 2.スキルアップのため研修を受ける(年 5 回以上)
⑤ 坂出エリアの連携	地域計画「安心して過ごせる地域を子育て家庭とともにつくる」 1.エリアのスタッフが情報共有や交流できる場をつくる。 2.連携してイベントを計画・企画し、親子の参加の機会を増やす。

【行動計画・連携計画】

- ①-1 コーディネーターと連携し、パパママ教室にてひろばの周知をする。妊娠等包括相談支援事業の面談後、早期利用につながるようひろばの案内をする。また、ひろばに来てもらうことで、スタッフだけでなく先輩パパ・ママと交流する機会を作り、産後の生活のイメージがもてるようにする。
- ②-1 赤ちゃん家庭、先輩パパ・ママ、専門家など、様々な人と交流できる機会を作る。また、保護者が夢中になって制作したり、おしゃべりしたり、リフレッシュしたりできるテーマを設け、まずは保護者が楽しめる時間となることで、継続した利用につなげる。
- ②-2 関係機関とのイベントを、坂出エリアで連携して行う。イベントの配置を調整し、親子が参加しやすい環境をつくる。
- ③-1 ひろばのお手伝いをボランティアで行うまるっ子サポーターズが、活動を通して役立ち感を得られる機会を設定する。イベントに参加し意図的に利用者に関わる機会を作ることで、接点が増え、利用者にとって頼れる存在が増えることを期待する。
- ③-3 地域の方と交流し、地域について知ることができるイベントを計画・実施する。
- ④-2 他部署のイベントや講座の参加、外部研修を受講する。受講後は研修報告にて他スタッフに共有する。
- ⑤-1 月 1 回程度、エリア内での情報交換・交流の場を持ち、各拠点の運営に活かせるようにする。
- ⑤-2 拠点以外でのイベントを開催し、ひろば以外でも地域の親子と交流できる場をつくる。(年 3 回程度)

事業費	8,575,000 円	(前年度事業費 8,575,000 円)
備考:		

(7) さかいで子育て支援センターまろっ子ひろば（子育て支援コーディネーター）

スタッフ数	常勤 1 名 ・ パート 1 名 ・ 業務委託 2 名
-------	-----------------------------

中期計画 3 年間で目指す姿	子育てに関わる人にとってのハブ的役割を担う
----------------	-----------------------

【今年度の目標】 妊娠期からの早期支援と拠点利用につなげる

目標達成のための計画	内容
① 妊娠期からの情報提供	1. LINEシステムを利用した情報提供（1 回/月） 2. パパママ教室・妊娠 8 カ月面談時における直接提供 3. 母子保健連絡会を利用して助産師・保健師へ拠点を中心とした子育て情報提供。効果測定：坂出市 0 歳児登録数
② 既存イベントの見直し	1. 妊娠期からの利用を促すイベント・講座の実施 2. 広報時期・広報、ツール、開催時期を再考する。（パパママ・健診・面談時） 効果測定：赤ちゃんひろば・0 歳児プログラム予約状況
③ 他機関連携	1. 1 年を通して、学童期を見据えた個別相談会を行う 効果測定：相談予約数
④ スタッフ連携・人材育成	1. コーディネーターの定期的なミーティング・ケース会の実施 2. コーディネーターの専門性のスキルアップの為の研修を受ける（子どもの特性・発達）

【行動計画・連携計画】

- ①-1 情報提供年間計画を作成
- ①-2 情報提供内容の再考。目的の確認とそれに応じた情報提供を実施する。
- ②-1 月齢に応じたプログラム内容とグループワークを中心とし繋がりがづくりを行う。（効果測定 0 歳児登録）
8 回/年（まろっ子・坂出）
- ②-2 広報媒体・時期・内容の年間計画をたてる。
- ④-1 ケース・多機関連携等の情報
- ④-2 月 1 回・週 1 回スケジュール・業務進捗をデイリーノートを利用しながら実施。

事業費	7,782,000 円（前年度事業費 7,782,000 円）
-----	---------------------------------

目標達成のための計画	内容
妊娠包括等相談支援事業（新・全数面談）	1. 面談 2. ケース記録 3. 実施状況報告（1 回/月） 4. 外国のルーツを持つ家庭・医療ケア児へのひろば利用に繋がる環境を整える 効果測定：面談実施割合

- 1 面談マニュアルに沿って実施。必要に応じて、振り返りミーティングにて見直しを行う。
- 4 利用者にニーズを聞く。アンケートを行う。（情報提供・通訳機の使用・外国語通信作成）

事業費	1,613,000 円（新規）
-----	-----------------

(8) さかいで子育て支援センターまるっ子ひろば(一時預かり)

スタッフ数	常勤 0 名 ・ パート 3 名
-------	--------------------------------

【今年度の目標】 安心して預けられる保育を行う

目標達成のための計画	内容
① 保育内容	1.子どもの成長を感じられる日誌・連絡票を作成する。(アンケート:子どもの成長を感じることができた 90%以上) 2.子どもの発達や保護者の対応についてなど、研修を受ける(年 3 回) 3.保育のセルフチェックを活用し、日々の保育確認を定期的に行う。
② 保護者対応	1.個人記録を利用しながら、送迎時に子どもの家庭での様子や気になる点を丁寧に聴き取りし保護者と共有する。
③ 利用人数	1.預かりの利用枠を増やす。(月約 80 枠→月約 100 枠) 2.新規登録を増やすため、ひろばで一時預かり説明会を行う。(年4回) 3.ホームページを月1回更新する。
④ スタッフ連携	1.まるっ子ミーティングにて、全スタッフで確認や共有ができるようにする。 2.朝礼の時間を活用し、他部署スタッフとの情報共有を行う。

【行動計画・連携計画】

- ①-1 子どもの成長や発達に応じた体験の場を増やし、様々な人とかかわることができる機会を増やす。
- ①-2 子どもや保護者について理解し、個々に対応することが安心につながると考え、学びの時間を確保しスタッフのスキルアップを図る。
- ②-1 送迎時の保護者対応を密にするため、丁寧に聴き取り・共有する時間を確保する。
- ③-1 一時預かりの預かり枠数を月約 100 枠(昨年度は月約 80 枠)に増やし、少しでも多くの方に利用してもらえるようにする。
- ③-2 ひろばで保育士が直接話をするこで、不安なことや心配なことを質問できるため新規登録につながると考える。
また、普段からひろばで保育を行うことで、保育の様子や保育士のことを知ってもらい安心につなげる。
- ③-3 一時預かりの基本情報や預かりの様子、預かり利用者の声などを投稿することで、一時預かりについての認知度を上げる。知ってもらうことで、少しでも利用へのハードルを下げ、今は利用しなくてもいざ必要な時に思い出したり、知り合いに伝えたりするための手立てとする。
- ④-1 日々の保育を振り返り、子ども・保護者の対応や保育内容、困りごとなどを話し合ったり、スタッフ間で共有する。
また、一時預かりスタッフだけでなく、他部署のスタッフとも共有できるようにする。
- ④-2 他部署と進捗状況の共有を密にし、各部署同士で交互サポートができるようにする。また、ひろばとコーディネーターとケース共有を行い、必要に応じて専門機関につなげる。

事業費	3,107,000 円 (前年度事業費 3,107,000 円)	利用料目標	600,000 円
備考:			